

週日の説教（聖クララの祝日）

金 大烈 神父 2009年8月11日（火）

《子どものような心がなければ、天国に入れない》

これから話すのは、今から500年以上前にイタリアのミラノであった物語です。

とても見目うるわしい、優しい、おだやかな微笑みをした女性が、ある画家を訪れました。そして、「先生、私は自分の肖像画を残したいのですが、もしよろしければ描いていただけませんか。」と頼みました。なぜならば、その人はとても有名な人気の画家だったからです。しかし彼は、自分に対していろいろ誇りをもっていました。だから、自分のような有名な画家が、なぜお金にもならない肖像画を頼まれるのか、腹を立てました。そして「この道を渡れば、仕事を探しているたくさんの画家がいるから、彼らに頼みなさい。」と答えました。彼女は「分かりました。」と言って、道を渡り自分の肖像画を描いてもらいに行きました。そうして描かれた絵が、「モナ・リザ」です。

その絵は、高慢な画家によって誕生したわけではなく、へりくだる心を持ち、何かに頼らなければ倒れてしまうような、本当に低い立場にいる人が描いたのです。描いた人の名前は、「レオナルド・ダ・ヴィンチ」です。彼は、道で人から頼まれた絵を描いて暮らしていたような人でした。しかし、彼女が来て頼んだとき、その顔を見たレオナルド・ダ・ヴィンチは、「このような微笑みならば何としても自分に描かせてほしい」と逆に頼みました。そして誕生したのが「モナ・リザ」という傑作だと言う話があるのです。



とにかく、今日の福音(マタイ 18:1-5,10,12-14)でイエス様は、子どものような心がなければ天国に入れないこと、そして天国の中にも偉いものと偉くないものと少し偉いものがあるようですが、子どものような心を持つ人が一番偉いものになることをおっしゃいました。

この福音で話されている『子ども』が意味するのは何なのでしょう。いろいろな面から解説ができるのですが、今日の福音を理解しようとする、やはりへりくだること、謙遜になること、またそのような人々を大切にすることをおっしゃっているのではないかと思います。

いつか皆様に申しあげたと思うのですが、謙遜というものは作られるものではありません。自分がどのような人生を過ごしたか、どのような心を保っているかによって自然に表れるものです。わざわざ謙遜な顔を作っている、その中に、隠れている高慢さが見えることは、よくあることです。謙遜というものは、ある日突然出来るものではありません。自分の心という畑をどのように耕し、上手に作ってきたかによって、自然にでる反応だと思います。ですから、謙遜な人々を見て、自分もそのような心を持って生きたいと願う強い心を持つことが必要です。

また、仕方なく弱い立場にいる人々もいます。例えば、今日の福音に出てくる「子ども達」は、何の力も持っていません。そういう子ども達に対して、私たちは、やはり慈しみの目でみるのが大切です。

私がおのれが尊敬した司祭がいます。彼は、スペインの方ですが、彼によって私は道を変えたくらい尊敬した方でした。その人に初めて出会い、その人の生き方を見て、今まで見てきた司祭たちの生き方と全然違うと思いました。そして、あまりにも心惹かれて、この人からならば学べるだろうと思い、助祭になる何ヶ月か前でしたが、その人の共同体に籍を移してしまいました。もちろん、大騒ぎになりました。しかし、彼を通して私はかなり変わりました。自分の行く道も変わったし、他にもいろいろな変化がありました。彼によって心を傷めたこともあるし、私自身が認めなければならない悪いところも結構ありました。とにかく、神学的にではなく、本当に霊性的にいろいろなことを教えていただいた方です。その方に、様々な姿を見せていただいたのですが、その一つとして、彼は大司

教様に会う時も、子どもに向き合う時も、おばあさんに出会う時も、誰が見ても近づきたくないような人に対する時も、いつも同じ態度を見せました。それは、本当に大事にする心でした。物乞いに対しても、悪口を言いに来る人に対しても、いつも変わらない言い方をしました。それを見て、この人は本当に人間の尊さをそのまま認めている方だと思いました。その頃の私は、偉そうに見える人には強い顔をして、弱く見える人にはそれ以上に弱くなるのが格好いいと思っていました。しかし、彼が見せた振る舞いや心の形は、人間をそのまま尊敬する姿でした。その時私は、それが、イエス様が教え、見せてくださった本当の姿ではないかと思いました。彼はいつでも、困っている人には本当に助けになろうとし、少し傲慢に陥っているものには身分を考えず叱るような人でした。そういう姿が格好いいと、私は認めました。

皆様、私たちの周りには、いろいろなことで困っている人々がいます。イエス様がおっしゃった人間の尊さを認めながら、神様が大事にするその人々の命を、私たちも助けなければいけないでしょう。そういう気持ちで相手を見ようとすれば、自然に慈しみが出てくるのではないのでしょうか。

この共同体の多くの方々が、優しい心で、キリストの精神を行おうとしているのがわかっています。困っている人々のために、心をこめて手を伸ばしているのも分かっています。それを特別なことと思わずに、私たちが当然しなければならないことだと思ってください。相手のこと、相手のプライドも考えながら、本当に配慮しようとする心を持ちましょう。お願い致します。

それから、今日は聖クララの祝日です。『クララ』の意味をご存知ですか。汚れがない、本当に清い状態を言います。きれいな水は、透明ですね。その下の砂まで全部見えます。そういう状態を『クララ』といいます。偶然かどうかは分かりませんが、聖女クララはその名前をつけられて、聖フランシスコの最初の女性の弟子となります。彼女は貴族の出身で、何不自由ない家庭で育ちました。しかし、物乞いするフランシスコの姿を見て、物乞いする理由、貧しさを保とうとする理由を理解し、自ら髪を切って、彼の精神に従って生活を始めます。

彼女が作った修道会は、観想修道会です。観想修道会と言うのは、この複雑な世の中を祈りによって支えようとする修道会です。いろいろな活動をするシスターや司祭、活動するクリスチャン達が、神様のみ旨によって誘惑に陥らずに正しい道を歩めるように絶え間なく祈る修道会です。

私はいつも不思議に思うのですが、ほとんどの人の性格は、自分の洗礼名についていきます。クララを洗礼名に持つ人々は、ほとんど、「祈り」というイメージを持っていると私は思います。皆様、そのイメージは自分が作ったものだと思わないでください。それは霊的に配られた一つの賜物です。その賜物をいつも生かしてください。

何よりも祈りが必要な時代です。皆様が、「この祈りによって誰かが救われるかもしれない」という心を持ち、一生懸命に聖クララの模範に従って祈ればよいのではないかと思います。クララが祈らなければそれはクララではありません。ですから、今までどおり一生懸命祈ってください。

私はずっと、太田教会の守護聖人は聖フランシスコだと思っていました。フランシスコの特色が強かったからそのように思ってしまったのですが、つい一週間ほど前に初めて、聖クララが守護聖人であると知りました。守護聖人の祝日なのでから本来は、今日は太田教会の大きな祝い日です。このように平日にあたる場合は、前の日曜日を祝日として過ごさなければならなかったと思い、申し訳ない気持ちになりました。来年からはそのようにしますので、よろしく申し上げます。

ありがとうございました。